



2019年9月 4日

**永寿会**

## 虹の通信 第31号

酷暑の夏を超えて～

昨年の秋から、新規事業への取り組みや個人的な事情の変化で多忙だったため、1年ぶりの虹の通信です。今年の夏は、本当に厳しく、照り返しや茹だるような8月の日々でした。私は駐車場探しが面倒なので、ビッグスクーターのヤマハ・マジステイヤーに乗っています。でも先日は走っていても、熱風の中を潜って行くような感じでした。

8月は、6日の広島で原爆投下から74年、平和記念式典が開催され、9日には長崎で平和宣言が発せられました。両市長が核兵器の被爆国として、核兵器廃絶の国際運動の先頭に立ってほしいと強く訴えたのに対し、安倍首相は核禁条約に言及せず、日本は条約を批准していません。何という乖離の現状でしょうか？不思議でなりません。米国に忖度し、関係諸国に先兵として君臨するつもりなのでしょうか。

また、15日は終戦記念日でした。日本の各地では、旧盆の最中で、キュウリとナスで馬と牛をつくり、先祖の霊を迎えている最中です。不思議なものです。全国で300万人以上の方が戦禍に倒れ、満足する人生を送ることなく帰泉されています。

9月2日の朝日歌壇には、歌人の馬場あき子さんが選んだ印象的な短歌が投稿されていました。

「命日が八月の墓並びおり、爆心地を離れて十里」(前田一揆)

「廃絶の信念のない人なんぞ記念式典に呼ぶこともない」(賀川秀真)

という二首、極めて象徴的で私の心象にぴったりで一言も加える必要がありませんでした。

一家が全滅し地上から消えたり、一軒の家から3人も4人も出征し、全員生きて帰ってこなかったりする例も全国に存在したのです。

法人本部周辺でも、里山の中には沢山の防空壕が国土防衛の任務を帯びた軍隊の手によって掘られており、昭和30年頃までは里山で遊ぶ場所の好適地でした。空襲警報が発令されると工場の従業員が続々と避難のため山の中の防空壕に入ったそうです。本部の裏山にも2カ所あります。

そんな時代があったことを私は後世に伝えていきたいと思っています。

以 上